



やっぱり

山田映画がいちばん！

発行 とよなか山田会
発行日 2017年6月 準備号

とよなか山田会ニュースレター準備号

山田洋次生誕地から

豊中には、ぼくの生まれた家がまだ残っていて、
大切に住んで頂いています。
豊中は懐かしいまちと新しいまちが仲良く
共に住み暮らしているすばらしいまちです。

(二〇一六年 豊中市名誉市民として)

(2017年5月4日先行上映会、文化芸術センターにて
1年ぶりの故郷・豊中で、軽やかにお話される山田洋次さん)

とよなかは、ぼくのふるさとです。
二歳までしか住んでいなかつたんですが、
あざやかな思い出が残っています。

(五月四日 先行上映会で)

漂泊のひと、フーテンの寅。生まれながらの一分为貫き風のように生きる彼にとつて、市井のつましい暮らしのふるさとは所詮落ち着くところにはあらず。だがそれでもなお帰らざるを得ぬ故郷へのひとり旅。飄々と襟を立てる背広姿を無心に風が吹き抜ける。

制作本数、実に四十八巻。驚異のシリーズは、この国が、監督の描く哀歎のユーモアと放浪する孤身に共感しているというほかはない。

扶持米三十石や四十石（現在の年収換算二百万円台）で、どうして家族・家扶併せて養つて行くことができるのか。繰り広げられる貧しい武士たちの日々。

だが、ひとたび下命あれば、どんな達者とでもどんな親友とでも剣を挙げて闘わねばならぬ。また時として意氣地をかけた闘いを挑まねばならぬ。

それぞれの最後の死闘。白刃を交える死線の中、潔さと彼らの覚悟をさまざまと見た。そしてまた、それらの男を想う女たちのなんと爽やかで美しく、優しいことか。この上もなく救われるのだ。

ただ原作者藤沢周平氏が語つてやまぬ東北の風景、その光と影をもつと見たいと思つた。（たそがれ清兵衛・秘剣鬼の爪・武士の一分を観て）



彼、平田周造は意気軒高たる後期高齢者である。高齢離婚、独居、孤独死、危険運転。極めて現代的な日本の課題が彼をとり巻いて繰り広げられ、分解寸前の家族がなお、彼を中心にはいきいきとトランジット、それゆえにこそ繋がつて行かざるを得ぬ。

周造くんよ、エールを送る。きみは断じて倒れではならぬ。

最後、偶然の邂逅。そして無縁の男が去つた。炎の棺の中で大好物の銀杏が爆ぜ、焦熱の死者の顔面上を飛び交うのは圧巻。思わぬ不気味な光景と映つたが、観客みんなは爆笑した。無縁の死とその餓は最期のコメディといふことか。

（家族はつらいよ2 偶感）



©2017「家族はつらいよ2」製作委員会

西井 弘和

「家族はつらじよ2」私の感想

■今回の「家族はつらじよ2」も前作以上に樂しませてもらいました。登場人物もほとんど変わらないのも安心してみることができました。ただ、小林稔侍や、笑福亭鶴瓶が、役柄を変えて登場し、物語の展開と笑いに重要な役割を果たしています。今社会で問題になつてゐる高齢ドライバーの免許返上のことや、無縁社会での孤独死の問題をも山田監督の温かい目で、面白可笑しく取り上げられていました。まさに涙と笑いの喜劇でした。居酒屋のシーンなどは、前作と同じく、小津安二郎の作品を思い起させたシーンでした。次回の展開が楽しみです。(S・T)

■人の死、それも薄幸の末の急死。喜劇では「タブー」へのチャレンジ…また新しい世界観を見せられました。しかも、救急隊による搬送、火葬場といった深刻きわまりない場面で大爆笑! まいったなあ。でも本人にとっては楽しい思いとともにベストな、それも笑いを誘いつつの最後だつたのかもしれないなど考えると、監督の優しいまなざしを感じるのです。(S・T)

■山田監督の映画には、大事にしたいなあとと思う他者へのいたわりが細やかに描かれていて、ぐつときます。また、これってあるよね~という場面も多いです。個人的には長女・成子さんの話しこそや行動が、自分とかぶり苦笑しています。

(M・O)



■「家族はつらじよ」の「家族」って、ここに登場する4家族のいざれのことかな?と考え込んでしまいます。蒼井優×妻夫木聰以外は、どこも「つらじ」感じがするし、全員集合するともつと「つらじ」状況にもなるし。外から見てる私たちは笑うしかないのですが。

でも「つらじ」からこそ結びついていく、そもそも「家族会議」「大家族」が今時存在する展開に、監督の暖かさ、メッセージが伝わります。(N・K)

■第一の印象は、おつかしくてお腹が痛いほど笑い、でも高齢者の孤独や貧困といった世の中を想い悔しくて涙し、2時間で顔面の筋肉がおかしくなったこと。ただ寅ちゃんの時から思うのは、女性陣はいつも魅力的に演出されるのに、男性陣、たとえば小林稔侍のような男前がお腹の出たさえないやもめのおじんなど、ボロボロになるのがおかしい。監督は女性を大切にするフェミニニストなのかしかり? それにしても山田映画はまだまだ深いので、何度も見ないと感想は書けません。

(H・K)

■「1・2」のシリーズを通じて伝わってくるのは、つくづく「つらくない家族」ってあるのかなあ、という現実です。大なり小なりわが身につまされるような価値観のすれ、離婚、親子関係等の危機、そして「2」では思わず他人の闖入。そして大不幸へ。でもでも「大騒ぎ」と共に最後は家族の絆を強めていく……、これからも「家族」シリーズは、つらくても家族! を教え続け、勇気を与えてくれるのでしょう。(A・U)

会場に満席の1000人あまりの観客



豊中市での先行上映会2017・5・4

先行上映会には、千人もの来場が！

上映後の山田監督の舞台挨拶を一部ご紹介します。

家族について 絵にかいたような幸せな家族ってそつあるもんじゃなく、それが仲良くしていられるようどこ家庭も影の部分があるもんですよね。各々の問題を上げ始めたら枚挙にいとまがないと思います。とすれば、この映画の家族はお互いにケンカばかりしてるんだけど、家族として続けていくこと努力する気持ちを皆がもつていてる。とても幸福な家族なんじゃないかな。

銀杏のエピソード 銀杏の話は、蒼井優ちゃんが友達に聞いた話なんですね。

銀杏が好きな人で、家族がお棺に銀杏を入れてパチパチはぜてびっくりしたと。それを聞き笑いあいながら、人の死という重たい話をしながら、僕たちは笑うもんなんだねと不思議な気持ちになりました。（中略）この話を映画のネタにと考えたときに、かねがね気になっていた、無縁社会、孤独死という問題を重ねてみようと思いました。こうじう重い問題を、笑いながら考えることができる映画ができるのかと工夫しました。

次回作について 作りたい映画はいくつもありますが、次回作はまだ企業秘密（笑）。中高年、大人が楽しめる映画が少くなり、またつくりづらくなっているけれども、僕はつくり続けていきたい。

（以下）これからも皆さん、映画の良い観客であってください。

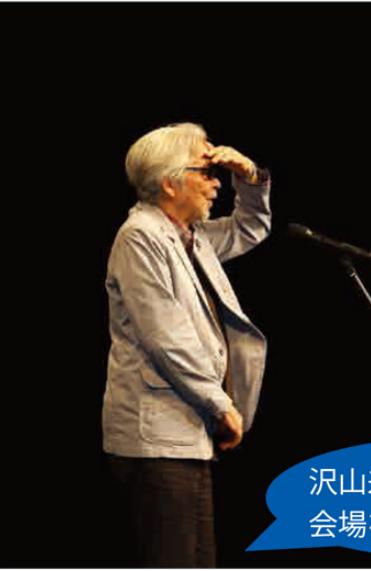
豊中を映画のロケ地にとの司会者のコメントに、会場

から大きな拍手が！

監督も、協力しなくちゃと笑つて答えてくださいました。監督

の次の帰郷を楽しみに待ちたい

と思います。



沢山来てくれるねーと
会場を見渡す山田監督

中国にも熱い山田ファン研究家が！

阿寅と私

劉 燕子さん（大阪在住）

一九八〇年代の初め「日流」ブームが起きていた。高校受験を控えた私は「幸福の黄色いハンカチ」、「男はつらいよ・ぼくの伯父さん」を観た。中日戦争映画に出てくる日本人とは違う新しいイメージで、何度も涙がこぼれた。

留学して一年目、東京に旅し、はとバスに乗り、江戸川のほとり、阿寅の故郷柴又に降り立った。土手にあがると、気持ちがほぐれ、「東京にもこんなところがあるんだな」と不思議な気持ちになりました。阿寅、こんなところで育ったのね。燕ちゃんが会いに来たぜ」と声をかけた。

アメリカ留学では全作品を観て、古き良き日本を再発見。

アツという間に二〇年以上。日中の狭間でマイノリティの私は、主流社会からドロップアウトしたフーテンの寅さんを観るたびに我が身を彷彿とさせられる。

「燕ちゃん、くよくよするなよ。インテリというのは自分で考えすぎますからね。そのうち俺は何を考えていたんだろうって、わかんななくなってくるんです。燕ちゃんの頭の中、配線がごちゃごちゃになってるんじゃないの？」

どこかで見守り、言葉を投げかけ、私を素直にさせてくれる。

独特的の歌い回し「奮闘努力の甲斐もなく、今日も涙の、今日も涙の日が落ちる、日が落ちる」で「一生青春」の寅さんは、私の心に永遠に生き続ける。

山田監督の作品を中国語で紹介してきたが、中国は急ピッチの高度成長で慌ただしく、そのよさはまだ分からぬじよ。でも、これからきっと。

注 阿寅（アイヌ）は「寅さん」の中国語訳で、「阿」は親しみを表します。

父は洋次さんとほぼ同じ年、スポーツクラブで知り合った8人の女性を引き連れてワインガブ飲み。気が付けば病院に搬送。ベッドを8人が囲んでいる。それを誇らしげに娘の私に語ります。「俺、すっごい気持ちよかつてん！」

母は介護中。兄は渡米後、行方知れず。死因も不明のまま昇天。弟は五十代で独身。毎晩酒が恋人。

私は一人娘と何とか「家名」を守らねばと必死。

そこへ父からの電話。前から話していた女性と、「俺、今、付き合ってるねん！」「誰にもいっただあかん！」



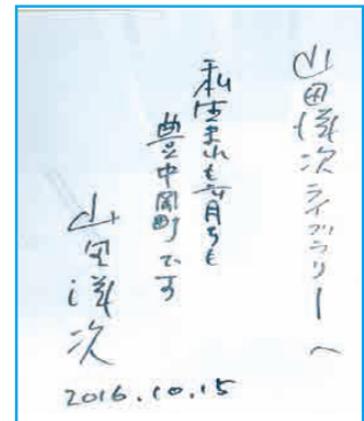
名誉市民
山田洋次ライブラリーを開設しています。

岡町図書館 岡町北 3-4-2 TEL06-6843-4553

豊中市出身の映画監督・脚本家である山田洋次さんの、名誉市民称号を記念し、平成28年(2016)年9月1日から、岡町図書館2階に「山田洋次ライブラリー」を開設しています。山田監督の著作や作品論、関連資料、また、日本映画に関する資料を幅広く集めたコーナーです。さらに、山田作品の映画DVDの貸し出しも行っています。みなさん、もうお越しいただけましたでしょうか。

■映画DVDは、ひとり1点、2週間借りれます。

(映画DVDはすべて山田洋次ライブラリーに置いてますが、リクエストしていただければ、市内の他の図書館でもお借りいただけます。*広域利用の方はリクエストできませんので岡町図書館へ。)



*今後「ニュースレター」シリーズの案としては、

「今も生きる寅さん！」男はつらいよ・寅さん第1作から48作まで内容紹介、山田監督近況報告、山田監督の本の紹介、山田洋次と山田映画を語る、山田監督由来の地めぐり（東大、柴又、山口、松竹撮影所など）、その他ご意見、ご提案お待ちしています。

とよなか山田会とは・・・

世界に誇る監督・脚本家山田洋次さんが生まれた豊中を誇りとし、もっとその作品と監督の素晴らしさをひろめるため平成26(2014)年発足。どなたでも賛同する方に入っています。

■こんな活動をします。

上映会、山田映画を語る会、ニュースレター発行、新しい山田監督の創作に親しむ会。「舞台、音楽劇」他みんなのアイディアもちより

■例えばこんな人歓迎します。

山田監督のことをもっと知りたい人、「寅さん」が好きな人、映画の楽しみ方を再発見したい人。

■私たちの夢

豊中で全国初の「山田洋次映画祭」をみんなで企画、開くことです。もちろん山田監督登場、「山田監督との懇親会」も・・・とか。



上映会 2014年9月13日 ゆやホールにて
映画は「幸福の黄色いハンカチ」

9.13は監督のお誕生日。みんなで黄色いハンカチをふって、監督にオメデトウ！を送りました。

問合せ先 とよなか山田会（代表 武市 進）

住所 〒561-0894 豊中市勝部1-1-7 携帯番号 080-3868-2010 FAX 050-7100-3065

メールアドレス info@toyonakayamadakai.com ホームページ <http://toyonakayamadakai.com>

会費は今のところ無料（カンパ、ボランティア歓迎）